

都市再生整備計画 事後評価シート  
鹿島市中心拠点再生地区

平成27年3月

佐賀県 鹿島市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	佐賀県		市町村名	鹿島市		地区名	鹿島市中心拠点再生地区			面積	35ha		
交付期間	平成25年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	948	国費率	0.50				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(イベント広場)、高質空間形成施設(鹿島駅トイレ・市道新町中牟田線)、高次都市施設(子育て支援施設)、既存建物活用事業(官民複合施設「市民交流プラザ」)										
		提案事業											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(イベント広場)		官民複合施設の空調機移設により、広場用地の確保が困難となった。複合施設4階のふれあい広場を代替えとして活用可能なため事業から削除			影響なし					
		提案事業											
	新たに追加した事業	基幹事業											
提案事業													
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成26年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	変更なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	中心市街地の歩行者数	人/日	800	平成24年度	1,000	平成26年度	956	956	△	あり ●	発祥文化をテーマにしたまちづくり等、商店街魅力向上の取り組みにより歩行者数は増加傾向にある。公的施設の再配置により今後さらなる増加が見込まれる。	平成27年6月
	指標2	空き店舗率	%	12.1	平成24年度	12.1	平成26年度	-	13.5	×	あり ●	中心市街地を構成する5つの商店街のうち、多くは現状維持の状況にあるが新町商店街の空き店舗増加が顕著であり、さらなる対策強化が求められる。	平成27年10月
	指標3	中心市街地の満足度	%	18.4	平成24年度	21.0	平成26年度	-	20.4	△	あり ●	官民複合施設「市民交流プラザ」を整備したことが満足度向上に貢献したと考えられる。今後、駅舎・駅前広場の整備等によりさらなる向上が見込まれる。	平成27年10月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	JR肥前鹿島駅の乗降者数	人/日	2,419	平成24年度	/	/	-	2,510	/	/	肥前浜宿と中心市街地を周遊する酒蔵ツーリズム企画や駅舎・トイレのバリアフリー化により乗降者は増加している。	平成27年9月
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	・官民複合施設「市民交流プラザ」のオープンを契機に、民間商業施設にも新たなテナントが来店したことで集客効果が上がったとともに、市民の利便性も向上した。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	・商工会議所の調査報告書によるモニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	・事業の効果を確認することができた。モニタリングと同様に毎年度、商工会議所の調査報告書により計測する。	
	住民参加プロセス	・中心市街地整備に関する市民ワークショップ				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	・まちづくりの手法としてワークショップは有効であり、今後も継続開催を検討していく。	
	持続的なまちづくり体制の構築	・高校生や店主による自主的なまちづくり活動				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	・高校生ボランティアや中心商店街店主が行う自主的な活動に対し、今後も市は支援を行う。	

## 様式2-2 地区の概要

### 鹿島市中心拠点再生地区(佐賀県鹿島市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:市民が利用し、集い、歩きたくなる都市の形成 目標1:空き商業施設の既存ストックを有効利用し、社会福祉・子育て支援等の公的施設を集約することでコンパクトシティの形成と、まちなかへの誘発効果による賑わいを創出する。 目標2:官民複合施設周辺を結ぶ新たな回遊軸を形成し、まちなかを歩いて楽しめる魅力ある空間とする。 目標3:高齢者や障がい者にやさしい歩いて暮らせるまちづくりを実現するため、中心商店街と連結する鹿島駅周辺を整備、快適な空間形成を図る。	中心市街地の歩行者数	単位:人/日	800 H2.4	1,000 H2.6	956 H2.6
	空き店舗率	単位:%	12.1 H2.4	12.1 H2.6	13.5 H2.6
	中心市街地の満足度	単位:%	18.4 H2.1	21.0 H2.6	20.4 H2.6

**官民複合施設**

**■基幹事業**  
 官民複合施設整備(老人福祉センター)  
 【地方都市リノベーション推進施設】  
 事業概要:土地・建物の取得・改築

**老人福祉センター(集会室)**

**老人福祉センター(機能回復訓練室)**

**子育て世代活動支援センター**

**■基幹事業**  
 官民複合施設整備  
 (子育て世代活動支援センター)  
 【高次都市施設】  
 事業概要:土地・建物の取得・改築

**■基幹事業**  
 肥前鹿島駅トイレ公衆トイレ整備

**肥前鹿島駅公衆トイレイメージ図**

**■基幹事業**  
 市道新町・中牟田線舗装整備  
 【高質空間形成施設】  
 事業概要:バリアフリー化、修景

**市道新町・中牟田線イメージ図**

**まちの課題の変化**

- 【既存ストックの有効活用】核テナントの撤退により、長期間空きフロアとなっていた中心市街地に立地する商業施設の一部を取得し、ここに公的施設(老人福祉センター、地域コミュニティセンター、子育て支援センター)を再配置したことで、都市機能が充実した。また、これを契機に民間商業施設フロアにも新たなテナントが出店したことで、集客効果がさらに向上、市民の利便性も増した。
- 【回遊路の整備】道路のバリアフリー化や修景整備により快適な歩行空間が形成された。高校生ボランティアや地元商店主による植栽活動の効果もあり、魅力ある市街地環境の形成が出来てきている。
- 【残された課題】中心市街地の歩行者量は増加傾向、また中心市街地に対する市民の満足度も上昇傾向に転じたものの、依然として空き店舗は増加している。経営状況の悪化や経営者の高齢化・後継者不足が主な要因と考えられ、現在実施している空き店舗・空き家対策のさらなる強化や新たな仕掛けづくりが必要である。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

- 【既存ストックの有効活用】官民複合施設「市民交流プラザ」を中心市街地エリアの核施設と位置づけ、ここを中心に様々なイベントの実施など、周辺商店街と連携したさらなる集客増に取り組む。
- 【回遊路の整備】道路のバリアフリー化や修景整備は部分的であり、中心市街地全体の魅力を高めるまでには至っていない。今後も引き続き中心市街地内における回遊路の整備を行う。また、交通弱者や高齢者を含め市民誰もがまちなかを安心して歩いて楽しめる歩行空間とするためにも、現在運行中のコミュニティバスのルートや運行時間等を再検討し、今後さらなる利用促進を図る。
- 【新たなコミュニティ拠点形成】肥前鹿島駅トイレのバリアフリー化は完了したが、駅舎・駅前広場の整備は未実施であり、駅前の賑わいが創出されていない。駅舎・駅前広場の整備に着手し、まちなかの魅力を一層高める拠点形成に優先的に取り組む。整備に際しては、交通結節機能の向上みならず、多様な市民活動の場となるような整備を行う。さらには、まちなかのネット環境の充実を図り、来街者の利便性向上に取り組む。
- 【空き店舗の活用と良好な景観づくり】商工会議所内に設置される産業支援センターと連携し、商店街の後継者育成や新たな人材育成、金融支援等により空き店舗の解消に取り組む。また、市民と協働し、学習活動等を通じ本市の歴史的情緒に調和した良好な景観のまちづくりに取り組む。